

○ 令和5年度教育行政執行方針(抜粋)

1. 基本的な考え方

学校教育においては、9年間の義務教育期間を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った教育や教職員の業務の効率化を推進するため、教育デジタルトランスフォーメーション(DX)を進めるほか、これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスにより、児童生徒一人ひとりが持つ力や可能性の最大限の発揮につながる学習活動と教育環境の整備を進めてまいります。

生涯学習においては、各世代のニーズに対応した学習機会の充実や主体的に学べる環境整備をすすめるとともに、学んだ成果と意欲が地域課題の解決に活かされる生涯学習社会の実現に向けて取り組んでまいります。

また、新型コロナウイルス感染症については、引き続き、基本的な感染症対策の徹底を図りながら、子どもたちの心身のケアに適切に対応するほか、学習・文化・スポーツ活動などの機会の確保を図ってまいります。

2. 主な取り組み

(1) 夢の実現に向けて自立し 互いに支え合う人づくり

学校教育については、エリア・ファミリー構想を基盤とした小中一貫教育の推進を図り、9年間の学びの連続性による学力向上や心の育みに取り組むほか、「おびひろ市民学」の着実な実施を通し、ふるさと帯広が有する豊かな自然環境や歴史・文化・産業等についての子どもたちの理解を促進してまいります。

また、デジタル技術の活用を通し、不登校児童生徒の多様な学びの機会の確保を図るほか、双方向性のあるコンテンツのプログラミング学習教材の導入など、ICTを活用した教育環境の整備を進めてまいります。

さらに、校務支援システムを活用し、児童生徒一人ひとりの能力や学力等を的確かつ効率的に分析するとともに、教職員の事務に係る負担を軽減するほか、コミュニティ・スクールの活動を推進し、地域との協働による学校を応援する体制づくりを図ってまいります。

施設整備については、引き続き、老朽化への対応や、長寿命化改修等を進め、教育環境の充実に努めるほか、帯広市学校施設長寿命化計画に基づく南町中学校の長寿命化改修に向けた基本設計を実施してまいります。

また、学習環境の充実として、教材備品や小学校の机・椅子の更新を進めてまいります。

学校給食については、新たなメニューの開発を進めるほか、給食に関する標語の募集等を通じて、食への理解を促進し、生産者等への感謝の気持ち、地域への愛着を育みながら、食育を推進してまいります。

また、食材価格の高騰に伴う保護者負担を増やすことなく、安全・安心で栄養バランスのとれた学校給食を提供してまいります。

青少年の健全育成については、地域ボランティアや青少年育成団体と連携した体験活動を進めるほか、関係機関と協力し、青少年の非行防止活動に取り組んでまいります。

帯広南商業高等学校については、十勝管内唯一の商業教育専門高校として、実践的な特色ある教育活動を通し、ビジネスの知識・技能を活かした地域に貢献できる人材を育成してまいります。

（２） 生涯にわたり学び 活躍できる人づくり

生涯学習の推進については、児童会館で昭和５０年代の帯広市街地中心部の精巧なジオラマを常設展示し、子どもたちをはじめ、市民にふるさとの歴史を伝えてまいります。

また、おびひろ動物園では、ビジターセンターの寄附に伴い、休憩コーナーやキッズスペース、電子案内板の設置などの施設整備を行うとともに、動物たちが生き生きと暮らせる環境づくりと展示の充実を図り、豊かな情操を育む教育の場を提供してまいります。

文化芸術活動の推進については、市民芸術祭や道立帯広美術館と連携した事業など、市民主体の文化芸術活動の支援や優れた芸術鑑賞の機会を提供してまいります。

スポーツ活動の推進については、ツール・ド・北海道２０２３の開催支援や、全国高等学校総合体育大会３競技の開催に向け、大会準備、選手関係者の受け入れ等、円滑な大会運営を進めていくほか、帯広市スポーツフェスティバルやフードバレーとかちマラソンなど各種イベントの開催を通じて、市民が多様な形でスポーツに親しむ機会を提供してまいります。

また、帯広市民文化ホールについては、小ホール座席の寄贈をいただきリニューアルを行うほか、とかちプラザ、帯広の森体育館など、計画的な設備更新や施設改修などによる長寿命化を実施し、コスト縮減に取り組みながら適切な管理運営に努めてまいります。